

グリーンから始まる新しい生活様式

佐野 麻里子 静岡富士宮市 五十歳

三年ほど前、高校の同級生二十人ほどが集うグループラインに入った。懐かしい名前を見つけ、高校時代を思い出した。話題はおいしいお店や旅の話が多く、「みんなそれぞれだなあ」と感心した。でも、私から返信することはなかった。

ところが、コロナ禍で植物に関するラインが増えた。「これ見て！ 赤いバラがきれいでしょ！」とか「山野草がかわいいぞ！」などの話題だ。実を言うと、五十歳を過ぎ、日々の生活に追われている中で、庭の草花が私の癒しだった。だから急に私も返信したくなった。「家のバラ、咲きました！」と、ステイホーム中に例年以上に世話をしたピエール・ド・ロンサールのピンクのバラの写真を送った。すると、「すごい、きれい！」「私のバラは一輪しか咲かなかった」など、思いがけない反響があり、うれしくて、初めて同級生とつながった気がした。その後も、夏椿やアガパンサスなど植物の話題で盛り上がった。昔はお花に興味がなかった元男子生徒からも「これって、アジサイ?!」と質問があり、思わずクスツと笑ったし、心がほっこりした。

コロナ禍で新しい生活様式がスタートした。不自由を感じることもある。が、四季折々に咲く花や緑をブーケに仕立て、我が家の玄関に飾ることが楽しみになっている。植物と触れ合うことで心が穏やかになる人は多いはずだ。これからもグリーンの話に花を咲かせたい。